

カイロ 見どころ

ギザの3大ピラミッド



ギザと言えば3大ピラミッド。なかでも存在感を放つのは、最大の大きさを誇り1番古いクフ王のピラミッドです。138mもの高さを誇るこのピラミッドは、カイロから車でギザへ訪れると街並みの向こうに突然現れます。古代と近代が融合した不思議な世界を体験することができるでしょう。

カフラー王のピラミッドは高さ136m。高台に建築されているため、視覚的にはクフ王のピラミッドより高く見えます。状態が良いことでも知られていて、参道の先にはスフィンクスがそびえています。

3大ピラミッドの中で最も小さいのがメンカウラー王のピラミッド。他の2つと比べて極端に小さいのは、当時の財政事情のためとも言われています。北側に大きな傷があるのも特徴です。

スフィンクス



高さ20m、全長73.5mのスフィンクスは、ライオンの体に人間の頭部を持つ神話上の怪物。夜は光と音楽のショーが開催され、昼とは違った顔が見えますよ。

太陽の船博物館

クフ王のピラミッドの南側で発見された、世界最古といわれる木造船「太陽の船」を復元し、展示している。この船はファラオの魂が天空を往来するときに使うものとされ葬儀に使われたともいわれている。すぐ横の敷地には第2の船が埋まっているのが確認されている。



ダハシュール屈折ピラミッド



スネフェル王の赤いピラミッドは高さが 104m。ギザのクフ王とカフラー王のピラミッドについて 3 番目の大きさです。世界遺産として登録されたピラミッドとして、一般的に想像する二等辺三角形のものとして最古と言われています。表面の花崗岩が赤く見えることから、別名は「赤いピラミッド」です。スネフェル王の屈折ピラミッドは高さ 105m。上半分と下半分の傾斜が違うのでその名が付きましたが、その独特のフォルムが印象的です。傾斜を変更した理由は、「勾配が急すぎて危険なため」「王が病気になり完成を早めた」など諸説あり、現在も判明していません。

ジョセル王の階段ピラミッド



サッカラはギザと異なり、ピラミッドの周辺に祭殿や王宮などの建築物があるのが特徴の世界遺産です。ジェセル王の階段ピラミッドは高さ 62m。その名のごとく階段状になっているピラミッドです。歴史上、初のピラミッドとされていて、その建築様式や宗教的な理念は後世に大きな影響を与えたといわれています。

ラムセス 2 世の巨像



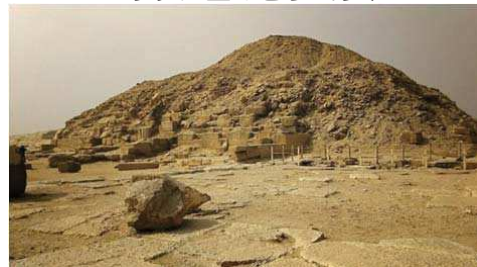
ラムセス 2 世がプタハ神殿の入口に立てた像。脚部は倒壊したため現在は横たわったまま。頭には上下エジプトを示す二重冠をかぶり、腰には短剣を差している。像の高さは 13m ほど。博物館の 2 階からは端正な王の顔が間近に見られる。

アラバスター製スフィンクス



ギザのスフィンクスについて二番目に大きいスフィンクスで、全長 8m、高さ 4.25m、重さは 80 t です。新王国時代代 18 王朝のアメンヘテプ二世が作ったとされています。

ウナス王のピラミッド



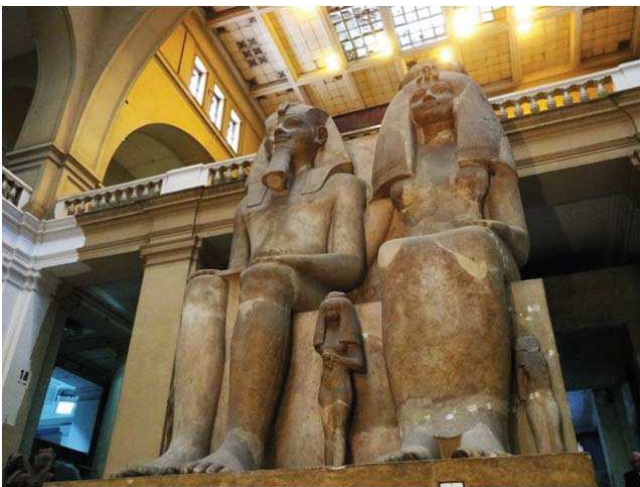
古王国時代第 5 王朝最後のファラオ、ウナス王のピラミッドは現在では崩れた丘のようになっているものの、建造当時は底辺部 57.5m、高さ 43m、葬祭殿や河岸神殿、参道などを有する、立派なピラミッド複合体を呈していた。しかし最も注目されるのは、玄室の壁面にびっしりと書かれたピラミッド・テキストである。王の復活やオシリス神の復活、王が太陽神に迎えられる話などで構成される宗教文書は、葬儀の際に神官によって唱えられたが、呪文の内容など解明されていない部分が多い。

赤のピラミッド



赤っぽい石が使われているので、赤のピラミッドと呼ばれている。断面が二等辺三角形の真正ピラミッドとしては最古のものとして有名だ。屈折ピラミッドと同じ失敗を繰り返さないよう、石材を斜め積みではなく、平行に積む方法がとられて建造された。

考古学博物館



エジプト考古学博物館は非常に多くの貴重な史料が大胆に配置されています。それら所蔵品の中でもとりわけ有名なものが、少年王ツタンカーメンの秘宝です。他にも、ラメセス2世など歴代の王のミイラを集めたミイラ室などがあり見応えがあります。このミイラ室は入館料とは別料金が必要となりますが、王のミイラと一緒に埋葬された動物たちのミイラは通常展示でも見られます。